

平成31年度 小栗栖宮山小学校の取組について

【学校教育目標】

『やさしく たくましい心で 高め合い、

自ら『自己実現』をめざす宮山の子』

《めざす子ども像》

○あいさつが出来る子（自分から、大きな声で）

○自ら学び、行動する子

○優しい気持ちで仲間を認め、協力できる子

○自律的で健康的な生活が送れる子

○きまりの意味を知り、守れる子

○将来に向けて夢がもてる子

【具体的な取組の重点】

① 学力向上に向けての取組

- ・ メディア教育の推進、コンピュータ及び電子機器の積極的活用。
- ・ 家庭学習定着の実践、家庭への協力発信を行う。
- ・ 全ての教職員が全ての子どもの教育に関わる意識をもつ。

② 読書活動の充実（「いつも手元に本を」）…考えるための道具「言語」を豊かに

- ・ 図書室や図書館の積極的利用の促進と学級図書・学年図書の充実
- ・ 読書時間の確保（朝の読書タイム）、家庭での読書週間を促す取組
- ・ 時事問題や社会に目を向けられる新聞記事等の活用

③ 規範意識の向上…「ダメなものはダメ」、良くないことは良くないと言える子。

- ・ 道徳授業の充実 ・ 朝会の充実 ・ 児童会活動
- ・ 教職員の子ども達への関わり
- ・ 保護者との連携、ルール・約束事の共有

④ 働き方改革を進める

- ・ 電話対応終了時刻の設定（平日19時、水曜日18時）
- ・ 学校行事・学校の取り組み等の見直し

⑤ 地域との連携（地域力を活かした教育活動を）

- ・ 学校運営協議会を核とした、地域組織・団体との連携した教育活動の推進
- ・ 災害に対応できる安心・安全な地域の核となる学校づくり

学校教育において重視する視点

1. 子どもに学力をつける

主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める。

- 全ての教科で基礎基本の定着を図る ⇒ 地道に子どもと向き合う。
- 主体的・対話的な学びを重視した授業づくり・教師の指導力を高める
- 「めあて」を明確にし、子ども達が「見通し」をもって授業に臨み、子どもたち同士で「まとめ」と「振り返り」ができる授業に
- 学んだことが普段の生活で生かせるように

(カリキュラムマネジメントの視点をもって)

2. 家庭学習を定着させる

日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る。

- 毎日の家庭学習の積み重ねで自学自習の習慣化を図る。
- 保護者の方と一緒に、家庭学習の大切さを伝える。
- 家庭学習の内容や方法について分かりやすく指導し、保護者にも伝える。
- 自分の興味をもったことを自主学習ノートを使って進められるようにしていきたい。(平成31年度)。

3. 自他を大切にできる態度を育成する。

- 子ども達の居場所が学校の中にある。学校は楽しいと言えるように！
- お互いのことを認め合い、励まし合える集団。そして注意し合える集団
- 自分の身体を健康に保てる子。しっかり食べることでがんばりのきく子

4. 「公共の精神」に基づく態度を育成する。

- 学校の取り組みに積極的に参加できる子に
- 地域の取り組みに積極的に参加できる子に（社会の一員としての自覚をもてる子に）